

新入生宣誓

春爛漫、全国各地の桜はどんな姿を見せているのでしょうか。世代も地域も超えた私たち新入生一同は、この素晴らしい日に同じ空の下、星槎大学の一員として迎えられ新たな一步を踏み出しました。本日は入学式を挙げていただき、教職員ならびに関係者の皆様方へ新入生を代表してお礼申し上げます。

私には二十歳の染色体異常をもつ重度知的障害の息子を筆頭に、次男、指定難病による脳症で後天的に重度知的障害になった長女、次女の4人の子どもがいます。二十数年前、理系の大学院を卒業し研究職に就こうと思いましたが、仕事に精を出して晩婚になる予感がしたので、先に結婚の道を選び子どもが生まれ落ちたらバリバリ働こうと考えていました。しかし、どうも普通に育たない長男の世話を追われ、障害が判明する頃には次男が誕生し、私の人生設計は見事に崩れ落ちたのです。障害受容としては螺旋型モデルに近い経過を辿り、肯定と否定を繰り返す日々でしたが、共感し合える仲間との出会いによって、いとも簡単に私の心は救い出されました。

それからというもの、療育や障害児教育の問題と向き合い活動を続けていますが、全国の特別支援学校の教室不足や教員不足の問題は悪化の一途をたどっています。全ての児童生徒は障害の有無や居住地に関わらず平等に教育を受ける権利があるはずなのに、長女の特別支援学校ひとつみても、この4月から半分に仕切られた教室が一気に増え、3人の広さの教室に6人が詰め込まれています。ユニセフの子どもの権利条約では、「子どもにとって一番いいことは何かという事を考えなければならない」とあります。国と懇談しても改善の糸口が全く見えない状態で、どうすれば劣悪な教育環境を改善することができるのか、私も我が子を通してしか学校が見えていないかもしれない、それならばまた違う視点を得るために教員を目指してみようと考えました。

まだ現役の学生だった頃、家庭教師や塾の講師をしていましたが、出会った子達はみんな笑顔で素直で可愛かったです。学校に行かない選択をしている子やいじめにより学校に通えなくなった子、期待に応えたい為に頑張り過ぎて心のバランスを崩してしまった子、発達障害児もいました。彼らが、学校でも家庭でもない評価に晒される事のない居場所を見つけ、のびのびとしていたのは印象的でした。あれから20年余り、学びの場は多様化し、インクルーシブ教育システムの構築が共生社会の形成に欠くことのできないものとなっています。

私たちは星槎大学と出会い、共生の理念の下それぞれの目指す分野を学ぶ事を選択し入学しました。志あって、偶然に、はたまた成り行きで入学した仲間もいるかもしれません。そんな多様な仲間と出会い意見を交わすことこそが、共生の一步だと確信しています。私たちは必ず共生社会の担い手となることでしょう。

結びに、私たち新入生一同は、一生懸命勉学に励み、高い志を持って日々の大学生活を送ることをここに誓い、宣誓の言葉といたします。

星槎大学 共生科学部共生科学科
榮 幸世